



八指石記

第四卷

特別
凡士
3979
4



門外 4
號 3973
卷 4



和列舊跡函考目錄

第四卷 添上郡

紀寺 身 御靈社事

新藥師寺

藤原

八嶋寺

龍腹寺

和余

人丸墳

光仁天皇陵

頭塔

不空院

八嶋陵

永井里

山村

標本社

田原陵二基



昭和二十七年
三月十八日
購

喜提山 付 兼俊僧正 ○ 薬師佛 ○ 佛牙

舍利 ○ 弁真 石洞寺 付 勸操僧

都 ○ 石洞八講事 ○ 廢亡 ○ 逢火塚事

中川寺 付 實範大徳事

忍辱山

笠置山

眉間寺

佐保山の東の陵

淡海公墓

元明天皇葬所 付 七之杭事

佐保山

聖武天皇陵

左保山西の陵

欲良能夜麻

不退寺 付 真如法親王佛事料卷后

○ 葉平朝臣自昼像事

法華滅罪之寺 付 國分寺 ○ 鴨毛屏風

○ 觀音 ○ 維摩像 ○ 舍利 ○ 弁真事

横笛堂

浄土院

海龍王寺 付 玄勝僧正 ○ 毘沙門出現念

利事

惠義押勝家

奈保山の東の陵

阿闍寺

法華寺社

楊梅宮

楊梅陵

奈保山の西の陵

諸高墓

薦枕川

祈奉 ○ 聖武天皇勅定賞賜目錄

○ 聖廟神毫縁起 ○ 廢亡 ○ 鎮守八幡 ○ 石清

水奉

辰市社

賣間清水

奈良墓

大念佛宗大和國本寺 付良忍上人 ○ 法明

上人 ○ 芳野餅餅 ○ 神輿善綱奉

柏木杜

大安寺 付貧女福貴

陵

辰市

真野萩原

辰市

真野萩原

南都七大寺
延喜式神名帳

南都十五大寺

和列舊跡幽考第四卷

添上郡

紀寺

紀寺は心山あり寺領若

紀寺は旧名連城寺行基菩薩乃開基起縁

桓武天皇延暦二年十二月封戸と後ハ

再興と書後破壊よおのびり紀寺有常

社と崇道天皇より紀寺心山又心霊乃

願塔

願塔ハ玄明僧正乃枯體と納し

監觴よありその比太宰少貳從

五位下藤原朝長廣嗣也心あり

書とあり心せ心とゆうよ

や所よりなり云勝花鳥使と志のびやうに
通ひく終よ廣嗣乃乃関くうらみ乃り
やなりのくゆやそ^新又光明皇太后と玄勝と
みそら半佛り^書廣嗣密奏^新なりよみ
きあしめ^新色^新道^新終り^新父^新は^新太后と玄勝と
柳代あうべ^新座と^新お^新う^新と^新ゆ^新せ^新終^新く^新お^新は
一^新海^新と^新の^新あ^新ま^新ぐ^新ら^新よ^新奏^新と^新程^新よ^新み^新と
ひ^新う^新の^新辰^新宮^新乃^新蓋^新障^新り^新ん^新終^新よ^新辰^新と
十一^新面^新觀^新音^新玄^新勝^新の^新千^新手^新觀^新音^新よ^新あ^新ら^新れ
ん^新終^新ひ^新より^新み^新と^新惡^新臣^新の^新皆^新ひ^新お^新ら^新り
つ^新り^新終^新り^新廣^新嗣^新及^新逆^新乃^新り^新と^新あ^新ら^新り^新^威表
又廣嗣表と^新な^新終^新よ^新時^新政^新乃^新得^新失^新あ^新ら^新ひ^新よ^新^記
天地乃災異と^新志^新る^新一^新玄^新勝^新僧^新正^新也^新下^新道^新

朝長真備^新の^新終^新る^新ん^新奉^新終^新る^新ん^新よ^新^後日
又玄勝僧正廣嗣と^新個^新伏^新と^新ま^新を^新る^新よ^新あ^新
^平家^新の^新終^新よ^新廣^新嗣^新朝^新歡^新也^新あり^新う^新れ
後天平十八年六月丙戌巳亥^新終^新る^新觀
音寺乃^新供^新養^新り^新導^新師^新玄^新勝^新僧^新正^新と^新廣
嗣^新は^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新
六月十八日^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新
真福寺乃^新場^新の^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新
よ^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新
之^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新
軍兵^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新終^新る^新ん^新

十二月乙酉（西暦）未納（西暦）あり終小水出り七十三
の元中（西暦）日廣園山陵（西暦）よりく（西暦）式日廣其
後延喜三度八月陰陽師より勅して大和
園山陵の地と見せしめ同み多十月甲子甲
申乃日陵とありてありて田原より流し終ひ
しより（西暦）後日（西暦）本紀（西暦）とありり田原天皇とぞりなり
死（西暦）正統（西暦）

光仁天皇陵

人皇四十九代光仁天皇天應元年十二月よ
終ひあり終ひく廣園山陵よりく（西暦）後日（西暦）本紀（西暦）其
後田原陵より改葬せしむる田原村乃水より廣園
あり

善提山寺領三百石當代真言宗

善提山正曆寺龍樹院ハ正曆中勅成
うけく兼後僧正乃建立僧正ハ法真院
横政（西暦）兼乃水子ありそ後建保六年信長大
僧正乃再真ありり是と中真開山也
ハ大僧正之月梅孫達云の水子あり本名葉
師佛之龍樹菩薩乃流りて終ひしと善云
畏三蔵乃来朝乃時より終ひ記又佛身
の舍利あり是ハ法然上人乃由也子建光法
師のおゆめりあり寛永六年癸上の時
色如來乃像火の色そこありれさせ終ひ
寺再真あり（西暦）當寺（西暦）記（西暦）

心洞寺

石岡寺の勅撰僧都といふあり秦氏のて
大和國高市郡乃人あり大安寺乃儀靈と師
とて後ハ善儀法師ハ三論と由をひその衣
と元後ハ一より大極殿乃寂勝王經と傳
一はくは宗震殿ゆて徳宗乃碩徳とあり
はめとのく義とてそつうく座主あそか
はせ後ハ三論と長父中一法相と長子
中とて是は僧都と強つり
▲石岡八幡乃監觸ハ勅撰僧都とあり大安
寺ハ乃後ハ一附隣房ハ榮好といひくは
也師ハ法師あり老母とや一あはひり

の童子銭法久ハの也とつありそ比ハ
七夫寺乃庫まて燈とつありそ比ハ
院ハ飯とつあり年乃附とつあり僧坊ハ是
とつあり每人ハ四律とつあり長子ハ是あり
きる榮好是とつあり一ハ母乃そあり
身ハ一ハ童子ハあえ一ハ行所ハ是
一ハハ三律とつあり後ハ交あはる榮好と
そはくは是きる走らありて後ハ榮好と
ありたり童子ハ師よりれぬのそありむ
しならんあを拍あり又老婦とつありのり
能ありてそあ人とえとつありはひく
クハ勅撰僧都あはれり後ハ童子
三人とつあり

婦の事案始は世よありがゆよ志くまを人
我の事案始は世よありがゆよ志くまを人
老ぬ久く業好乃乃くぬとあや一まれぬ
る時をくやうく乃事乃ゆあうひくさ
て後のむきこのやうな事ありておろそか
とあうぬ事どの流りあてひひく業好
ハ世よあるぞといおの事けり明年僧都よ
客あまあり然の事ありれば老ぬのそ
まどよまれ童子を酔て福ありくぐさ
見事バ目ちうくはけりやとあさゆく
そるへんぞなる事老ぬふまひ目け
り業好とこり事なるやとけあれ
わげよゆ事バ童子そのとむとさうり

あまゆひ被よりぬきを老ぬあや一みく
あまゆひ被よりぬきを老ぬあや一みく
しよあまゆひ被よりぬきを老ぬあや一みく
とさくよりぬきを老ぬあや一みく
よりぬきを老ぬあや一みく
て老ぬ乃死を我の我あや一みく
げによる事案始は世よありがゆよ志く
石岡寺乃りありはるり僧都をわかれ
がり後ひく流事八巻とりあり八人せ
一卷はとよみく老ぬの遊善とんハ
七人まことけありく四日二座乃後序
物一後ひくありはるり僧都をわかれ
遊善とんハ

△は阪より及毎よみことのりありたりそれ
中よ一河二河とく紀のを傳へ齋衛三年五
月東大寺大佛のみうへおりの世後ひの時
ことこのり

遠右大寺從四位上清原真人岑成向佐
保山陵曰天皇恐年懸年掛畏佐保山
陵お奏賜同奏久御願止之奉遠理給工
東大寺乃廬舍那佛代久經礼皮自然尔
毀損天玄年五月二十三日願落給因茲
泰儀實肉口從四位上源朝臣多安孫守
從四位上清原真人龍雄等遠善使天可奉
造固狀年奏給工而國家奉繁久故障多
天今尔未急利今奉始天的久奉造固留良

山陵乃御願尔相助護給命依之佛毛奉二
造固利年久可在止之天右大寺從四位上清
原真人岑成年善使天恐年懸年奏賜久
奏文徳
真福寺觀上乃みことのり

維永氣二年歲次丁亥二月十四日己未夜
日良辰尔大日本國開白從一位行充大良
藤原朝臣掛毛畏支佐保山推慮廟乃廣
前余恐奏恐申賜止申久真福寺波靈
廟乃所建之也其後次々乃皇后怨掛乃
加作聖堂塔毛有其數中畧安玄年十二
所女四日夜不慮于有火天數字乃堂舍
時于為茂利忽開比告天氏乃卿相寺土引

心雲欲良能夜麻

八雲山あり又よまの山ともいふ續日本紀曰
國あり又よまの山ともいふ續日本紀曰
後實山雍良能

元明天皇葬所
は所の聖哉天皇推乾陵乃乾あり依
安成七上瓶とゆふ事ハ古乃立石よ
瓶乃くさりとあらしをせゆふよく
はくえをるるの強ぬまはも教あり
て當代石一川ありその表よ瓶
乃杖とつる躍るまごありその割さ
海母のはく乃物とをくも元明天皇

實のて葬一なるのいひはく入り

人王早三代元明天皇由海をまきくありあし
後ひく養老の十月癸未丁亥太上天皇在太
長屋王系議友系朝臣房景和とあり後ひて
勅あり朕國のあり乃の海きて死ありはる也
ゆふをさ一是則天地乃あとり何よりりて
るみぬべもや葬成わはくまきありひひ
る一歳とせりしては強ぬまはも教あり
ざりてく朕の志く後天祖皇孫上郡後實山
雍良能のて燈とあり卯とありあは後
乃のまは其國郡の朝廷乃由宇乃天
と勢し後乃世よはく入りよ葬具よ金
とりりなるあ丹青よ強く入りあは

▲菅原朝長の子孫の記後小遣像あり

陽成院乃震幹乃贊曰

右近衛權中納言原朝臣業平者平城

天皇之權孫阿保親王之立男也元慶

第四曆癸酉廿八日行年五十六而卒

少くとも及氏色あでし是をばはゆれ人乃老なり

法華滅罪之寺 寺領二百廿石

法苑寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

延喜寺は及乃國分寺なり

明田天王護國之寺と号し一層乃因分寺夫
水田十町多しむ十人乃一層とよ海をて法
寺滅罪之寺と号し一層寺の道の所と云
ててられ一層叔勝宝元年大和國法興寺
よ壘田地一千町金光明寺よ田千町推し
て後日僧乃寺の安居舎よは最勝王徑と
稱し一層の寺乃滅罪乃場よは法興寺と
さしめ後後日本家より東大寺の道乃道
十八町あり後紀明皇皇后順礼乃寺と云ふ
その道乃た右よ東大寺もて屏風と云
るもつと云やその屏風大仏もつと目あり
ありあり世ありひつとありあり鴨乃毛の
屏風と云ふ是あり其録

種好田良 易以得穀 君賢臣忠 易以至豊
誦辭之結 多脱會情 正直之言 倒心逆耳
正直為心 神明所祐 禍福無門 唯人所招
父母不愛 不孝之子 明君不納 不益之臣
清介長樂 濁富恒憂 孝當竭力 忠則及命
君臣不信 國政不安 父母不信 家國不睦
は屏風東大寺乃勅符の余よありと云
一本堂十一面觀音菩薩ハ光明皇后所
さしめみしあり縁又乃脱天生健達羅國の
后乃母をよありて光明皇后乃水と云
うはし一層のんて末朝帝王一層乃此あり
一層像ありとあり帝王編年
一層像ハひのけ寺ありて維摩會あり

その會は眞福寺より此へ来て後西に死
よと入るなり 雅摩乃像の河をよ移りしに
後ひの眞福寺の會は山にありしを
乃くより又五粒乃舍利の光明皇太后乃水
西移り又小粒の舍利ありと一粒あり由
しは事ごとく分敷ありてつくなくと云事

子銀帽
▲再興の地系淡洲乃堪空上人快理と云事
後の西大寺眞正菩薩乃再興あり其後又
破壊して堂一宇塔一基ありむら乃金堂の
後今乃堂のありてり人のことよりは堂
の由建立の慶長六年九月御母長乃由
よ幕下豊長云は再興あり奉行ハ所捕布云

▲當代律宗より寛元三年西大寺の眞正
菩薩と師とては寺乃名遠沙屋敷と
ゆひり建長元年慈善寺大比丘屋敷と
うけははり西大寺法末寺也いありり

法善寺乃東の門乃より横笛乃堂を

横笛堂

横笛といふ女あり建礼門院乃雅司もぞ
傳り小松友乃侍新田頼よありしれり
横笛よわする青絲乃髪造よふ紅玉乃膚
世よあらうははらうる横笛りたりるを
皇と色ありんとすまのあまうがは末父と

寺のまわらきをいんを志うびくらのありて
 溪澱乃法福寺もぞこりなりけりけり
 中々一してさばひ行さうと色對面
 じまびくしてそれより野山よりありあり
 里ぬ女色りおあして傳けり一はあり
 よ園く遊は入道
 そゆまぞ根うらと色梓ちまは道よ入ぞうり
 居入し

そ歌を色何うらとじあびり川をば心
 毛後及ハ法華寺よなをさうがおひのほりり
 やありきむ程をくありけり
 いろく川の氷上大井川のいろや
 樹乃とよて果とあげらるる
 天

野の湖は入道なりけり
 野の湖は入道なりけり
 野の湖は入道なりけり

阿闍寺

法華寺乃多層のつらふなる
 て田中よ松の一本あり
 乃松あり
 集三語 南代もやりなをさく松

阿闍寺の光明皇后の御
 みあり海して伽藍佛像
 心ゆしくたごやうり
 ありて底わたり
 乃徳をひと
 ありてまはせり

法華寺社

法華寺社 西のふもとにあり

貞観元年四月十日 法華寺に從三位藤原

高御座栖日神よ正三位又從四位下法華

寺よ坐神よ從四位よとゆづを後あり三

代実録よ

海龍王寺 法華の東ありありびの願百

海龍王寺又乃の願寺 續目解寺とて 帝玉

より光明皇太后天年三年七月よ建立延

寶七のよと凡九百四十七のよ又云 僧正

入唐乃時國波とてやふとと終るく 蓮雲

玄勝僧正の阿刀氏義剛よ法入て唯識

學び靈龜二年勅とるを傳りてのありあよ

智周法師よ相宗の海自法りけり

乃の山門玄勝とてとてと結ひ

紫の袈裟とてとてとて天年七

年真人廣成よ友ありひと海約あり經卷

五子余卷徳佛乃像と將來とてとてとて

乃の袈裟成施してとてとてとて

肉道場よゆとてとてとてとて

ゆとてとてとてとてとてとて

後八月僧正の書

後沙門乃行よとてとてとてとて

時の人ありとてとてとてとて

法華寺

寺の毘沙門乃像あり舍利三粒あり
現ゆりくた法華寺ありは舍利と山人
所是一うづり後ひたり道乃行振表を
後ら宣命をぞありま相續日本紀より
りくあり

揚梅宮

法華寺西南迤よ揚梅乃天神と云

社ありはむらりもや

揚梅の宮代々々々天皇より後ひ後
丑位以上と宴一後ひよりハ續日本紀
よりあり

惠長押勝宅

大師押勝家の揚梅乃雲の南より後ひ

揚梅と云く内裏代々々々世乃人
の昔ひありて目代そをある後日本紀押勝ハ
天平寶字八年太政官乃既代々々々
とこあり大納言仲丸と云ひ人あり後日本紀
太政大臣中智丸乃男あり系藤原乃姓
惠長と云ふ二家と云ひ人後々々々一人也
世代押へと云ひく是は勝ののありを
仲丸乃後代々々々押勝と付く事よりこれ
らこれ孝深天皇乃此後々々々々
てせゆを後ひよりあると云ふ姓と云ふん
と云ふたびよ云々々々後ひを後
後と云ふあり後水

揚梅の宮

俗のうらまへといふは南ふ揚梅乃天神
也といふあり又平城天皇乃陵乃何たり
は一帝とてつく念佛乃地とてんとて
善国朝長越勝寺乃肉よとてつくると
三代実録よるくつりその越勝寺のけ
何たりあり揚梅のけつりふあふ揚梅の
陵り

平安宮乃此字日本根子推國彦乃城揚
梅乃陵よおさあなる大和山階上郡あり
延喜式

奈保山東の陵 依よ大まといふ
人王四十三代元明天皇奈保山東の陵大和國
階上郡あり延喜式 越勝山雅良峯ありて

多ありとありなれ 後日 本紀 爰より此のくま
事のよりけきくびくくもてあはくくま
べし

奈保山西陵

は陵ハ元明天皇乃陵乃西揚梅陵の
あまあり

奈保山西乃陵ハ人王四十四代淳足姬天皇元
大和國階上郡あり延喜式 天乎廿年四月
庚申階上郡あり後小此年六十九同十二月
位保山乃陵よ細めなれ天乎勝寶二
十月丙辰朔癸酉奈保山乃陵よ
久重る 續日本紀 天乎廿年より延寶七年迄
九百二十丁二十丁

後百餘年乃其よりより所して西の寺
也の寺後弘治の地より所して大富大寺と
以て秋洞三年佛堂ありびよ丈六乃佛像
爲り成る良より所して門道大
唐西明寺の爲となりて門ありあり
後ひく天平元年の寺と由建ちあり食
封一百戸と後少く二七年乃るは遠
ありより極大の寺とひく三百年の末
田と施入あり同十七年大富大寺とあり
この大安寺と号するは又東大西大
寺の類して僧の南大寺といひたり
聖廟乃水誓の縁起よりなりて大安寺
ハ都率天乃一院と天竺乃祇園極會よ

うにし祇園精舍といふなり西の寺よ
うにし西の寺乃一院とありて
南都七大寺乃一なりて北野天神依別當よ
てありて寺をまごころなり水網聖書乃
縁起とのう縁小松法師の門弟子よ若て
南寺法本寺といふなり
▲むろい貧女寺乃本寺よ福分祈し
浅野貴文とありてせ後ひくより増上大
富貴の家とありてありて新天平元年
より延寶七年より九九百廿七より
▲天平十九年聖徳天皇乃勅よ去るより
寺乃資財目錄と書してありて
勸進

乃正卷菩提山正曆寺乃院あり資感
帳とらるるよ食封一千戸輪定出奉本橋三
十万束墾田地九百三十二町水田二百一十四
町今墾田地九百九十町園くよけ行
あり毎冬乃末納六十九万七千九百廿四
束二把四分そのり依色金銀等納よのべ
ぐり記中よ布二万四千七百廿端余ありと
り

▲聖廟乃由筆丸縁起今乃世よありて
奈良乃後寺と海終王寺蘭年よ
記中よ至る
▲廢元とよ
阿羅やしら

多け記観音乃像一軀のあり世終よと修補し
よ川よ二畝四面乃堂と建よりて大安寺
ありとあり野終花よあり人王六十八
代後一条院安三年七月廿日大安寺
の形様本とあり解文又柱十六中後
津よりひ記よとあり乃あり檢非遠
使成通貞證本とありよとあり
乃あり人王百三代後花園院乃御宇
大地震よ堂社僧あり果ぬまげ依
乃勸進あり
とありとあり兵靈山之鳥乃あり
色麻乃ありとのと

▲慶長年中津乃和尙大寂寺あり

らまのくに依像二君四面乃其の室よりまゝと
記本を色分くよわれ佛面の意乃其室乃
志記のものとあり或は尚捨棄く位格よ
とあり速に乃書よるなり

鎮守八幡宮ありそ乃なりよ石清水乃
松とて一村あり行教和尚宗徒八幡神
と勸清乃時大菩薩本房よはりて後ひく
水乃水乃よあよ清水と名よるなり
しきまのばよのけりくく乃石より冷水
るがれ出せるなり水乃水乃是と石
清水の名乃をめとあり平安城男山乃石
清水と大安寺よりはりてなり
と色石清水乃其の大安寺より已に男山

よあり也いふ大安寺よ男山の後よ三義
多ぐひよあり石清水
未社記安よ天永四年四月真福
寺乃大元乃いふなり大安寺本
宮乃神興とよあよ物なりと評定し
きるが男山乃石清水八幡儀園寺の大安寺
乃其よりはりて神興上流よはりてあり
新べりありなり乃牒状とはりてあり男山
儀園寺よ是と披敷しては義案外至極
より行教和尚先男山よ勸請して後
大安寺よりはりて後宗眼大法師宗
師寺よりはりて其後流とありあり
本宮とありありと一味同心のありあり
らりてありあり

三十三

〜の朝野群談よありありなり。最後乃
ありそひたふのよ傳りきるせしなり

陵

大安寺村乃東のよりまきよ一基あり
け陵いじき乃此代より山陵といふを
あり

辰市社 大安寺村の南より

辰市社二座儀よ清乃宮といふ春日明神

祭清より春日山より清乃宮といふ春日明神

寺村風秀行乃靈社あり 春日

辰市

一村乃春よよ八雲山折物撰者 藤田

和虫とあり辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

辰乃日市乃 藤田

是とむじり下総國勝原乃高野乃并水
及下女ありあき海にたあさねとさうくち
しまし水鏡つむそのくちり身入りて妻女よ
も子信より如誓原如乳咲までそそりて
んくく人くおさくそふ夜出乃如入水門
船より妻よ女許ひわのひく一生ひくま
らわゆとて海でそ乃身と漢よまげりそれ
心とあるあり又乃海乃海乃乃てこまごよ
わり海乃入にまく乃はなう海乃乃う
ゆ乃乃并ゆ海をどよあり海乃海乃又
曰まうまげ乃ゆ乃乃萩原若乃海乃乃
まごもある勢あり或乃大和國或ハ相模或ハ
陸奥國よあり是らよ海にひねへし

奈良の墓

西院志より唯衣のみせあり

般足媛命乃墓

延喜太山守皇子之墓 日本

磐之媛乃墓

日本 奈良山よりありとぞ

大念佛宗大和國之本寺

大念佛宗ハ大和攝津河内をこよのこゆり
りて糸乃國中ありそれ故大和乃本寺
七ヶ寺とあり乃南都乃德融寺郡山乃
四融寺梅井村乃素迎寺宇受乃光明寺
といなり村乃宗徒寺白石村乃眞善寺東
菟村乃一里行 大念佛寺

▲惣本寺の撰法、因がけの邦、あつて大系
山諸佛護念院、大念佛寺也、少閑基、良
忠上人そまゝのり、後六代中後より、中真閑
山の撰法、因深江村乃法明上人あり
▲閑山良忠上人のあり、乃因富田乃人あり
顯密よやんども、死人をありある、しるひ異人
ありて、少く上人をいして、翻通念佛を
する、ゆゑも、翻通とよみ、なほり、唱ふれ、徳人
よ、翻通、一徳人、唱ふまじ、我よ、又翻通、
切徳他よ、越より、上人、諸山乃人、良よ、是、
まゝ、あよ、我、又天神地祇と交とて、唱へる、
一上人、少あや、み、誰人よ、傳れ、うく、八雲、
よ、我、ハ、是、變る、寺乃、毗沙門天、あり、り、て、

か、い、く、く、せ、後、ひ、ま、そ、ま、ま、の、り、上、人、翻、通、念、佛、と
唱へ、徳、人、よ、ま、ま、あ、れ、ま、ま、記、天、兼、二、年、二、月、一、日、と
り、實、と、る、年、六、十、一、は、上、大、大、系、山、よ、作、く
來、運、院、と、て、て、り、ま、又、鬼、魅、乃、物、づ、り、
代、ま、ま、又、待、賢、皇、后、乃、宮、女、ハ、上、人、乃、凡、人
あり、ね、法、より、て、り、あり、と、あり、一、ま、ま、の、ま、
ら、ん、八、字、文、珠、乃、法、と、修、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
乃、大、石、變、ト、て、師、子、を、ま、ま、り、或、時、の、持、經、の
法、院、經、時、く、光、法、を、ま、ま、り、修、ま、ま、ま、ま、
▲中、真、閑、基、法、明、上、人、ハ、撰、法、乃、因、深、江、村
の、後、より、男、山、八、幡、菩、薩、乃、神、傳、よ、ゆ、く、
山城、國、よ、お、り、し、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
系、法、の、し、て、人、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

如
卷四

七六

さけけりよ波風をきく船のまうらひきこば
は鉦鼓や鼓神乃りけりよそのあつあつと
て波もぞ入るまきするそれより速風とぞ
やくに巻巻ありま後所屋乃浦中て鉦
鼓懸くまわつてはまきするに懸くつては
鉦鼓とぞまけは是より懸く鉦鼓とはな
けけらまうとあり又天より降臨乃旗一
流あり相大会佛寺ハ他カ懸通あり一
懸懸上人乃門下子懸懸乃遠原寺より
自カ懸通乃法流まうまきけりより後六代
中懸一けりまうや

ハ芳野懸虫乃神人あひまけまするその法
施ハ芳野乃板お記十敷あつびよ自
百七ありあひまけまする懸玉指環の
前よそまへ儀養後經ありて後乃餅
飯被碎しておけく乃茶の中よ下
へうたてくまらひは御して毎二月一日儀
人よ是儀施より芳野乃餅くがりよあ
是より又二月十一日芳野乃舎部あり
神興三社お記よ大会佛寺より亭一
把りてまきて神興よまびつつけその
ま働よ養乃網代まびまるとそそ
代あひまけくまうあつあつあつあ
あまのやまうらひはあひま

天石立神社

和州舊跡幽考第四卷終

